

100 才を迎えた絵鳩さん、安倍首相を叱る！

絵鳩さんの講演を聞いてその感動の余韻が残るなかで、休憩を挟んで質疑が行われました。会場の皆さんには予め配布していた質問用紙を回収して質疑に入りました。絵鳩さんは前段のお話しのなかにあるように、目も耳もたいへん不自由されています。主催者が座長としてアシストさせていただきながら質疑を進めました。安倍首相へのキツイお叱りの言葉をのべられました。

質問：それでは最初の質問です。絵鳩さんがいまお話しされたことは、すべてを記憶してこられたのではないかと思います。そこでこのように記憶することのコツのようなものはありますか。

もう一件、私たちが歴史や戦争のことを学ぶときにはどのようなことを大切にしながら学んだらよいでしょうか。

絵鳩：ものをおぼえるようなコツがあるかという質問ですが、たしかに自分は記憶力がいい方だと思います。ですが年をと

って、晩年記憶力も劣ってきましたが、今回も原稿をつくりました。私自身は暗記術というものを持っていないのですね。これを見ないで話せるようになったのは、やはり何回もくり返しくり返し覚えることしかないのですねえ。私が思うに、私の兄弟がそうですけれど、暗記力に優れたものと推理する能力に優れたものと二つのタイプがあるように思うのです。私の兄貴はずばらしく推理力が優れていたのですが暗記が全然だめなのです。第一高等学校を3回受けたが失敗した。数学の方はほとんど満点をとっているのに、暗記の方は0点に近かったと記憶しています。

また、私の妹は暗記力に優れていて数学などもみんな暗記していました。だからぼくは思うに、人間には推理型と暗記型があるんだろうと思うのです。

ぼく自身は考えてみるとどちらでもなかったのですね。推理について哲学的なことも好きですし、暗記も好きでした。思い返してみると中学校のとき一番よかったのは1学期を通じて100点をとったということがあるのです。それ



は5年生の三角？という数学がありますね。ほとんどの者が乙か丙ばかりだったのにぼくは満点だった。

そう見ると推理力の方は優れていたんだね。暗記の方はやはり繰り返しが大
事ではないでしょうか。人によってはコツがあるのかも知れません。だが私は
残念ながらそのコツをもっていません。

質問：何かを学ぶときはどんなことを大切にしながら学ぶといいですか。

絵鳩：・・・、(しばらく考えて)学ぶ、ということですが哲学関係、論文関
係、哲学論文関係などになればその学び方に違いが出てくると思いますね。と
くにねえ、哲学関係で言うならば、本当の読み方はその人の書いている神髄は
一体何か、をつかむことにあると思いますが、私自身は自分の思想で納得いく
ものからつかんでいったという、これはちょっと変形的な学習の仕方だと僕は
思うのです。

もっともいい方法はやはり、その著者の言わんとする本質は何か、というこ
とに集中すべきだと思うのですね。ぼくはどちらかという自分の思想に合致
したものを選ぶ、というような読み方でその点でぼくは誤っていたと思うので
す。優れた哲学者になれなかった原因だろうと思います。

要するに、作者の本質をつかむということに全神経を集中すべきではないで
しょうか。これがなかなか難しいのです。そういうことに徹底していかないと
理論的な掌握した理論を展開するような人間にはなれないとぼくは思うので
すねえ。・・・どうも不十分で申し訳ありません。

座長：絵鳩さんの仰った「記憶」の話ですが、私は約10年くらい絵鳩さんか
らこのようにお話を聞かせていただいています。最初の数年は絵鳩さんはお話
のテーマに沿ったレジメを用意されて、いつもレジメに添ってきっちりとお
話をしてくださいました。あるとき、レジメから話が外れて行って私は「あれ
っ！」と思ったことがあったのです。そのときは時間もかなりオーバーして話
されたのです。集会が終わった後に、絵鳩さんは「このレジメの文字が見えな
くなったんだよ」、と仰いました。7, 8年前のことです。

そんなことがあったのですが、それ以降も証言をお願いしてきました。その
直後の集会では、事前に私がいただいて、いつもと同じように集会参加者の皆
さんにはレジメを配りましたが、絵鳩さんは自分用のレジメの用意をされませ
んでした。それでも、レジメに添ってきっちりとお話されたのです。どうして？
と思いましたが、本当に何回も何回も自分で書いた原稿を読み返して、原稿通
り話ができるようにすべてを覚えてこられたのです。

あるとき、絵鳩さんのお宅を訪ねたとき、話の過程で「原稿を見せましょう」
と絵鳩さんがパソコンを開きました。画面から14ポイントのゴシック大文字

で書かれた文章が私の目に飛びこんできました。「そうだったのか」と半分納得しながらも、絵鳩さんの努力と情熱には感動させられました。

それ以降の集会でも、今日の集会でも絵鳩さんはそのようにしてお話してくださいっているのです。絵鳩さんのこの努力、情熱には私たちは「感謝」とか「感動」とかの言葉ではつくせない思いです。

絵鳩：いま、松山さんが言われましたが、私は目がいいときには10.5ポイントで印刷したものはこうして普通に読んで読めたのです。ところがいまは、14ポイントの活字でも、近寄ってもわからなくなるときがあるのです。そうなったときには、やはり繰り返し繰り返し暗記するしか方法はありません。今日の話についても、一ヶ月くらい毎日一回はこれを暗唱して準備してきています。だから年齢によっても暗記のしかたが困難になりますね。そのうち無理に暗記しなくても何か方法が見つかる時代もくるのでしょうかねえ。

座長：そういうことで、絵鳩さんの努力に感謝しながら、次の質問に移ります。

質問：安倍首相が、日中戦争や太平洋戦争が侵略戦争であったことを認めようとしなさい。村山談話も認めたくないことははっきりしています。「侵略」ということについて安倍は認めようとしませんが、そのことについてどう思いますか。

安倍首相は怠け者だ！！

絵鳩：安倍首相をはじめ今の自民党ですね。彼らが一番目の敵にしているのが平和憲法であり、狙っているのはその改悪でしょう。何のために改悪するのか。それは昔ながらの「軍国主義日本へ帰れ」というためですね。

彼らはこの前の中日戦争を、その当時の政府が「聖戦」であり、「正義の戦争」と言っていたわけでしょう。そのことをそのまま受け継いでいる思想ですから、まったく進歩のない思想であるし、そもそも自民党は発足以来、「再軍備と自主憲法」という憲法改正を念願としてスタートしているのですから。

だから彼らは過去の戦争の実体を知ろうともしない。**怠け者の証拠**ですね。過去の戦争の実体を少しでも知ろうとすれば戦争ほど罪悪なものはない。そのことをさとるべきです。**彼らは怠け者だ！**（語気を強めて発言された）**思想的な怠け者、過去の歴史を正確に学ぼうとしない怠け者、**というべきだろうと思います。

ただ、残念ながらこの自民党が圧倒的な勝利を占めたという日本国民のまだまだ政治意識が低いことが、残念でなりません。

質問：次の質問です。絵鳩さんは28才のときに出征されて、帰国されたのが43才だったのですね。奥様は、その間ずっと待っておられたのですね。そこで、奥様のことについて少しお話しください。

絵鳩：今日、ここに私が山梨のときの教え子がきてくれています。彼女は知っていると思いますが、私の妻は私が山梨の女子師範と山梨高等女学校の教師になったときにお茶の水を出て、1年遅れて家事科の教師としてやって参りました。一度くらいしか話しをしたことがないのです。

私は運動時間の空き時間に、校庭で柱によりかかっていたら彼女が近づいてきて、「石渡（絵鳩さんの旧姓）先生は千葉県出身ですか？」と聞かれて、「そうですよ」と応え、彼女が「私もそうです」と言ってそれで別れただけです。（笑）
会話というのはそのくらいだったのです。

あるいは「家庭寮」というのがありました。そこニ寮母がいて、各先生がよばれていってみんなで話しをした。そのようなことがあった。そこで妻になる人が寮母のときに小畑校長に連れて行かれたことはありました。そのときも記憶に残る話しはしていないし、直接話したことはないのです。だが、彼女の父親がぼくに結婚を申し込んできたのです。

ところが何よりも、いつ戦争に行かなければならないかという状況ですから、その話しは生きてかえって来たらそのときの話しとしましょう、ということで別れていたのです。

そして帰ってきたら、彼女は待っていましたというのですね。これじゃ、結婚しないわけにはいかない（笑）、ということで結婚しました。

帰ってきた当時、杉並に小さな家を建てておりましたのでそこにしばらく住みました。いま、彼女は94才になりますが、今日もきてくれている老人ホームの皆さんの親切な介護を受けて元気を回復しています。

以上です。（笑）

座長：みなさん、いまの話しだけでいいですか。もう少し聞きたいですよ。

絵鳩：少しつけ加えると、彼女は一人娘だったのですね。私の弟も、兄貴ももちろんですが、当時の風潮もあってぼくも決して婿入りなどするつもりはありませんでした。でも戦争から帰ってきたら、15年も待ったというのですね。これにはぼくは頭が下がりました。これは男性にはできないことです。そのとき母親が健在でした。そこで潔く母親の所望に応じて、婿入りをしました。

（声をすぼめて）以上です。

会場の教え子さんから手が上がって発言されました。

小池さん：この話しはじめてお聞きしました。本当に女先生はエライと思いま

す。私にはとてもできません。私も素敵な絵鳩先生をずーっとあこがれていました。こんなすばらしい話しが聞けてたいへんうれしいです。

絵鳩：小池さんはね。私が赴任したときは3年生でA組の級長で、もちろん成績も首席だったのです。庭球部のキャプテンもやっていたね。小池さんはね、たしか女子高等師範学校を希望していました。当時私の姉、妹ともに日本女子大を出ていまして、当時は高等師範学校についてはよく知らなくて、要するに「教師型の人間をつくる」学校と理解していました。人間はもっと豊かな人間でありたいと思った。そのために姉と妹が行った日本女子大がいいということで、ぼくが無理矢理勧めたために日本女子大に行かれたのですね。いまは後悔しています。(笑い声)

座長：このような大切なお話しなかなか聞けません。ありがとうございました。
質問：もう少し質問を続けます。社会党がダメになって、憲法を守っていく政党がなかなか大きくなりません。中帰連が分裂して、統一したその経験からいまの政党について何かコメントをお願いします。

絵鳩：そうですねー。・・・(しばらく考えて)
じつは今、ぼくは目も耳も悪くなってテレビはあるのですが、見ていてもほとんど読みとれないのです。そこでいまの政治の細かいことはわかりません。ひと言で言えば現在自民党が推進しようとする憲法改悪に反対する党こそが信頼される党であると思うのです。そのような党はどのようなものがあるか。おそらく日本社会党はそのナンバーワンであったことは間違いない。社民党がそれにつづく党であるべきなのでしょうね。だが、日本の進歩党が日本人の支持を受けていないという状況、この悲しい状況のなかにやがて近い将来、再び戦争のできる日本に変換していくというのではないかと心配しています。憲法改悪に反対する党があれば、なぜそれが統一できないのかと思う。



これはね、中国の毛沢東時代に「抗日統一戦線」というのをやりましたね。民族資本家まで組み込んで抗日勢力としてそれを結集させるという運動をやっているわけです。そのような大きな目的に向かって統合する、ということがどうしてできないのか、その点では日本民族の方が中国民族より劣るのじゃないかという印象をぼくは持ちますね。「覆水盆に返らず」といいます。一度盆の水がこぼれたら再び盆の上には戻れないということ、これは日本の通念なのです。このことを日本の各政党は実行しているのではないのでしょうか。

わが会＝中帰連はその常識を覆して統一しました。その根拠には中国での苦

しい苦しい共同闘争が、強い共通体験が絆になっていたということが言えるの
でしょうね。これを作りあげたのが中国の共産党であったといえるだろう。だ
から一般社会では、これは日本人の悪いクセかもしれませんが、大同に付くの
ではなくて小異で争っていくという、これを現在のたくさんの政党がそれを示
していると、ぼくは考えますね。残念です。

座長：戦犯たちが、ようやく侵略戦争で自分がしてきたことの反省を自覚しても中国管理
所の職員たちに対して、なかなか正直に言わないという時期がありましたね。そのときに
管理所の職員たちはどのように接してくれたのですか。

絵鳩：撫順戦犯管理所に送られて、導かれた場所に「東北直轄官制所」という看
板があったのです。誰も自分が戦犯として中国に送られたのだと思っていなか
ったのですね。それで、管理所に入った当時は反抗しました。とくにひどかつ
たのは将官、佐官連中です。看守人が廊下を通ればバカヤロー呼ばわりしたり、
大きな声で歌を歌ったりして、管理所職員が制止しても言うことを聞かなか
った。一般の戦犯にも若干はそのような傾向はあった。

その当時、中国の政府は周恩来総理の「戦犯たりとも人間である。その人格
を尊重せよ」という教えを発出していました。管理所の主なる指導者はそのこ
とを理解していたのだけれど、例えば炊事員の人たちは、俺たちは1日にコウ
リャン飯を2回しか食わないのに、なぜ戦犯たちに3度のコメの飯を食わせる
のか、と不満を持ちその不満から少しくらいゴミが入ろうと何が文句あるか、
勝手にしろ！というようなことをうそぶいていた。また、理髪員はわざと異形
な、不格好な髪型にして「ざまー見ろ！」とうそぶいていた者もあった。

それが、管理所の指導者たちが毎週のように「研究会」といいますか、その
ような会をもって、中国の上部の思想はこうなんだ、と。憎いにくい戦犯たち
ではあるが、この人たちは将来の中国に対しての協力者になり得る人間なのだ。
上部はそう考えている、お前たちもそう理解するといい、と繰り返し繰り返し
説得をしてその努力の結果、殺しても飽き足らない戦犯たちを親兄弟同様に優
遇したのです。私たちの目には見えない、そこには計り知れない苦勞があった
のです。そのことはあとから聞きました。

だから中国側にもなみなみならない苦勞があって、ようやく到達した結果と
いうことができますね。

座長：これは質問ではなくて、絵鳩さんにお伝えしたい、ということです。最後
にアンケート用紙に書かれていたなかの一つを紹介します。

「絵鳩さんのお話を聞いて、私も残された人生を信念をもって前向きに生き
たいと思います。本当に充実したひとときを過ごさせていただきました。あり

ありがとうございました」

会場の皆さん全員の意見を代弁していただきました。

質問や感想を書itekudassatta皆さん、ありがとうございます。質問にていねいに応えてkudassatta絵鳩さんありがとうございました。これで第 1 部を終わります。